

市長（作野広昭君）

本市の合併時及び合併後の展望などについての御質問でありますけれども、私は平成17年2月、県議会の総務企画委員会の委員長を務めておりました。1市2町5村による広域合併は、日本海から白山まで美しい自然に富み、おのおのの地域で培われた歴史、文化、伝統が息づき、観光や産業振興において大きな可能性を秘めた地域の合併であり、その魅力を存分に発揮するためには、地域の資源や特性を生かした振興策を初め、オール白山で盛り上げていくような市民の一体感の醸成が不可欠であると感じておりました。

また、合併に至る実情につきましては、当時、国・地方とも極めて厳しい財政状況下であり、地方自治体においては早急な行財政基盤の強化が喫緊の課題であったと認識しております。

その対策として行政の効率化と財政基盤の強化を目的とした国の進める平成の大合併の流れの中で、県内最大の広域合併は県議会議員また一市民として大変注目をしていたことを覚えております。

合併に対する声をどのように把握しているかとの質問であります。

平成22年8月に行った市民満足度調査の中で、合併後の日常生活の変化について聞いています。それによりますと、全体の約1割の方が「やや不満」「不満」と答えているものの、その他の方は「満足」か「やや満足」、もしくは「普通」と答えております。

私自身も市政報告会などで直接市民の皆さんとお話しする中で、とりわけ白山ろく地域では「合併前はよかった」とか「合併しなけ

ればよかった」という声をお聞きします。確かに合併前の白山ろくの住民が受けていた行政サービスの水準を基準にしますと、部分的には低下しているものもあると思っています。

しかしながら、先ほども申し上げましたように、もし合併していなかったら交付税が減ったことで財政が破たんし、今以上に住民サービスが低下するという情報が当時、住民の皆さんに十分に伝わっていなかったという部分もあったかもしれません。

一方で、当時の状況をよく知っている合併協議に携わった多くの方々からは、やはり合併してよかったとの御意見もいただいております。

いずれにいたしましても、合併による効果をもっともっと市民の皆さんに知ってもらう必要があると思っています。

さまざまな御意見があることは十分承知しておりますが、それらの声を真摯に受けとめながら、市政の運営に生かしていきたいと思っています。